



2024年12月12日

各 位

会社名 株式会社西武ホールディングス
代表者 代表取締役社長兼COO 西山隆一郎
(コード番号：9024 東証プライム市場)
問合せ先 執行役員広報部長 多々良嘉浩
(TEL. 03-6709-3112)

東京ガーデンテラス紀尾井町の流動化にともなう資金使途について

当社は、2024年5月9日に公表いたしました「西武グループ長期戦略2035」に記載のとおり、東京ガーデンテラス紀尾井町を流動化することとしておりましたが、本日開催の取締役会において、基本協定書等を締結することおよび、当該流動化にともなう資金使途につき決議いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 流動化と資金使途に向けた想い

今回の東京ガーデンテラス紀尾井町の流動化を起点とした、西武グループの次なる成長に向けた「挑戦」に込めた想いを別紙に記載いたしました。

そのうえで、資金使途を記載しておりますが、「Resilience & Sustainability」という考えのもと、昨今のVUCAの度合いが深まる時代においても柔軟に経営できる体制を構築することが肝要と考えており、最適資本構成を意識したバランスシートの改善および資本効率性や投資リターン、株主還元を意識してまいります。

2. 成長投資への充当

(1) 主要ホテルのバリューアップ

西武グループ長期戦略2035で計画している投資に加え、足元の事業環境（建築費高騰や旺盛なインバウンド需要等）に鑑み、同戦略を深化（ホテル・レジャー事業のさらなるインバウンド需要の取り込みおよび値上げの継続）すべく、ブランド価値、収益力向上のための主要ホテル（品川等）のバリューアップを実施する（投資規律を遵守）。

(2) 成長の源泉となる人財への投資

成長を支える原動力となる人財への投資（西武グループ長期戦略2035達成に向けた業界最高の処遇実現やサービスレベル向上に資する異次元の教育投資など）を加速する。

(3) 森林保全をはじめとした自然資本、その他社会・関係資本への取り組み

西武グループが全国に保有する森林等は社会的重要な資産であり、その保全・活用のため自然資本への取り組みを継続する。

3. 株主還元の実施

(1) 自己株式の取得

資本効率性の向上（BS コントロール、ROE・EPS 向上）や資本コストの低減を企図し、また「西武グループ長期戦略 2035」の効果発現により将来の NAV は上昇していくという考えのもと、2024 年 12 月より 700 億円の自己株式の取得を実施する。

(2) 増配

株主へ長期継続的に還元することを意識し、2025 年 3 月期の配当予想を 1 株当たり配当金 40 円/年に増配する（累進配当も継続）。

以上

東京ガーデンテラス紀尾井町の流動化にともなう資金用途について

挑戦すること。これは西武グループの背骨をなすグループビジョンの中で謳った、私たちが最も大切にしている行動規範です。

およそ 100 年前に産声を上げて大いなる発展を遂げた西武グループは、今、総合不動産業を核とした新たな成長ストーリーの実現に「挑戦」します。そして、その成長ストーリーは、東京ガーデンテラス紀尾井町の流動化から始まります。

西武グループは、本年 5 月に発表した西武グループ長期戦略 2035 で「Resilience & Sustainability -安全・安心とともに、かけがえのない空間と時間を創造する-」というアウトカムを掲げ、「トータルステークホルダーサティスファクションの向上」を図ることを宣言しました。株主、債権者、従業員、お客さま、地域社会等すべてのステークホルダーの満足を高め、一体となって成長し、アウトカムを実現する一。東京ガーデンテラス紀尾井町の流動化による資金の用途は、その考え方に立脚しています。

I. 振り返り

1920 年に設立した箱根土地株式会社を前身とする西武グループは、土地の開発、交通機関の拡充に重点を置いて全国で事業を拡大しました。箱根、軽井沢の開発に始まり、武蔵野鉄道、川越鉄道など現在の西武鉄道につながる鉄道網を構築してきました。大雄山鉄道、駿豆鉄道、近江鉄道も傘下とし、現在は伊豆箱根鉄道、近江鉄道としてそれぞれ地域になくってはならない交通機関となっています。1950 年代からはホテル・レジャー、スポーツ事業分野を拡大しました。赤坂プリンスホテルの営業開始は 1955 年、その後「赤プリ」として多くのお客さまに親しまれ、一時代を築きました。

時代は進み 2004 年。私たちが決して忘れてはならない年となります。総会屋への利益供与事件による商法違反、有価証券報告書虚偽記載によって、その年 12 月に西武鉄道は上場廃止となりました。

西武グループは生まれ変わる必要がありました。2006 年 3 月 27 日には、持株会社制度への移行にともなう組織再編を完了し、グループ全体の経営を統括する純粋持株会社である西武ホールディングスのもとに各事業会社を収めて、コーポレートガバナンス体制を整備しました。新たな経営理念としてグループビジョンを作成、コンプライアンスの徹底を掲げ、内部統制を再構築しました。事業面で「峻別と集中」を進める一方、資本を増強して財務体質を強化しました。そうして西武グループはステークホルダーの皆さまに支えられ、再生を果たしました。その後リーマンショック、東日本大震災による影響も乗り越え、2014 年 4 月 23 日、東京証券取引所第一部に再び上場しました。

その後業績が順調に推移する中、2020 年、新型コロナの世界的な猛威で状況が一変、未

曾有の打撃を受けました。新たな危機への対処として最も重要なことは、長期的観点に立って、また繰り返されるであろうパンデミック等の急激かつ甚大な経済環境変動に対する耐性を備え、新たな成長のストーリーを描くことでした。すなわち、Resilience & Sustainabilityです。そのためには、事業構造の転換が必須でした。西武グループは、不動産回転型ビジネスに参入し、西武不動産を中心とした総合不動産事業を新たな核に据え、オペレーター専門に転換した西武・プリンスホテルズワールドワイドが世界的展開を図るホテル・レジャー事業、西武鉄道が先導する都市交通・沿線事業とのシナジーによって成長を図る戦略に大きく舵を切りました。不動産事業は西武グループの中軸事業となって、キャピタルリサイクルの推進、すなわち保有不動産の流動化による資金を活用して再投資を持続的にこなうことで、資本効率を向上させ、企業価値の増大を実現していきます。

その最大の原動力となるのが、赤坂プリンスホテル開業から来年に70年を迎える東京ガーデンテラス紀尾井町の流動化です。「赤プリ」は2011年に閉館、跡地に2016年に東京ガーデンテラス紀尾井町がグランドオープン、西武グループの不動産の再開発の成功事例となり、上場後の飛躍の象徴となりました。この手塩にかけて育てた歴史ある地の流動化は、これまでも時代とともに変化を遂げ、今、新たに将来の持続的な成長と社会への貢献へ向けたストーリーに踏み出す私たちの決意として実施します。

II. 【西武グループ長期戦略 2035】 トータルステークホルダーサティスファクションの向上に向けて

既述の通り、本年5月に策定した「西武グループ長期戦略 2035」において、アウトカム「Resilience & Sustainability -安全・安心とともに、かけがえのない空間と時間を創造する-」を掲げ、「トータルステークホルダーサティスファクションの向上」を打ち出しました。その実現のための成長戦略の中核に不動産事業を置き、不動産の保有を前提とした従来ビジネスモデルから、キャピタルリサイクル（物件の流動化とその資金を活用した再投資の継続的实施）を駆動させるビジネスモデルへ転換することとしました。保有物件の流動化で得た資金を再投資に回し、そのサイクルを拡大することで、持続的な成長を実現します。

東京ガーデンテラス紀尾井町の流動化は、その「キャピタルリサイクルの最大の原動力」であり、本日、Blackstone Inc. (NYSE: BX) 又はその関連会社が運用又は投資アドバイザーを務める特定のファンドを相手先とする基本協定書を締結いたしました。

東京ガーデンテラス紀尾井町は、赤坂プリンスホテル時代から培った多様な人々が集うおもてなしの地において、紀尾井町固有の歴史的環境や自然環境と調和した国際色豊かな複合市街地を目指して誕生し、歴史がもたらす品格と未来への憧憬が融合し、訪れる人、働く人、暮らす人一人ひとりを、穏やかさと希望が包む空間を提供してまいりました。この価値を認めていただき、このたび、多くの資金を得るにいたりました。

この資金を西武グループは、「成長投資」と「株主還元」に充当します。

成長投資の第一は中核事業の強化です。高輪、品川、芝公園などの東京都心エリアに加え、

西武新宿、高田馬場など西武鉄道沿線の不動産再開発事業が目白押しであり、軽井沢、箱根、富良野などのリゾート開発事業も同時に進行しています。もちろん、新たな優良物件の取得、開発投資もおこないます。さらに、観光大国の担い手として、プリンスホテルのブランド価値を高めていくため、プリンスブランドのブラッシュアップやショーケースとなる主要事業所のバリューアップ投資を進めてまいります。そして、これらのプロジェクト投資が、長期計画において設定した投資基準と投資効果に厳格に照らしながらおこなわれるのは言うまでもありません。

第二は、人財戦略への投資です。グループ各社において、「人財スキル・人員数確保」「働きがいのある組織」に向けた取り組みにより「個人の成長」を促進し、その「個人×個人が最大限活躍できる組織づくり」をすることで「プロフェッショナル集団」を目指してまいります。加えて、成長の原動力となる人財への投資も拡充し、さまざまな観点から業界最高の従業員処遇と研修プログラムの実現を追求してまいります。

第三は、自然資本への投資です。西武グループでは、すべての事業にサステナビリティの軸を通すべく、「西武グループ環境方針」に則りさまざまな取り組みを推進しております。今後は、全国に跨って保有している森林等の保全プロジェクトを本格スタートし、地球環境の保全という社会的使命を果たしてまいります。

次に、株主還元については、長年に渡って西武グループを支えていただいた株主の皆さま、新たな成長ストーリーに期待し新たに株主になっていただいた皆さまに対して、増配を実施するとともに、今回の東京ガーデンテラス紀尾井町の流動化で得た資金の一部を自社株買いという形で還元いたします。

西武グループは、東京ガーデンテラス紀尾井町の流動化を起点とした新たな戦略により、果実をより大きなものとし、その果実から新たな種を生み出し、次の100年に向けて、かけがえのない空間と時間を創造し続けてまいります。



開業当時の赤坂プリンスホテル
(現・赤坂プリンス クラシックハウス)



2002年より開始した
赤坂プリンスホテルの
クリスマスイルミネーション



2016年に開業した
東京ガーデンテラス紀尾井町

【ご参考】

グループビジョン（2006年3月27日制定）

グループビジョンは、グループ理念、グループ宣言、スローガンで構成されます。
グループ理念は、西武グループが長年にわたり大切にしてきたことであり、私たちのすべての活動の出発点であり、変わる事のない基本姿勢です。

【グループ理念】

私たち西武グループは地域・社会の発展、環境の保全に貢献し、安全で快適なサービスを提供します。

また、お客さまの新たな感動の創造に誇りと責任を持って挑戦します。

【グループ宣言】

私たちは、「お客さまの行動と感動を創り出す」サービスのプロフェッショナルをめざします。

1. 誠実であること

常に、「安全」を基本にすべての事業・サービスを推進します。

常に、オープンで、フェアな心を持って行動します。

常に、お客さまの声、地域の声を大切にします。

2. 共に歩むこと

常に、自然環境、地球環境への配慮を忘れません。

常に、地域社会の一員として行動します。

常に、グループ内外と積極的に連携を図ります。

3. 挑戦すること

常に、グローバルな視点を持って行動します。

常に、時代を先取りする新しいサービスを提案します。

常に、お客さまの生活に新しい感動を提供します。

【スローガン】

「でかける人を、ほほえむ人へ。」（英文：Smiles ahead）

東京ガーデンテラス紀尾井町の流動化に ともなう資金使途について

2024年12月12日
株式会社西武ホールディングス (9024)
<https://www.seibuholdings.co.jp/>

西武グループ長期戦略2035の目指すもの

- 「西武グループ長期戦略2035」において、アウトカム「Resilience & Sustainability -安全・安心とともに、かけがえのない空間と時間を創造する-」を実現し、トータルステークホルダーサティスファクションの向上を図る。
- そのため、東京ガーデンテラス紀尾井町の流動化を最大限の原動力として、持続的なキャピタルリサイクルを実施するとともに、資本コストを上回るリターンを創出していき、新たな未来を切り開くべく次なる「挑戦」をしていく。



トータルステークホルダーサティスファクションの向上
(株主・債権者・従業員・お客さま・地域社会等)

西武グループ長期戦略2035 インベストメントハイライト

- 不動産事業を核とした持続的な成長と資本効率性向上の実現に向けて、最適資本構成の考え方に基づいたキャピタルアロケーションを実施。
(東京ガーデンテラス紀尾井町の流動化にともなう資金使途を決定)

エグゼクティブサマリー

インベストメントハイライト



- 01 不動産事業を核として持続的な成長を実現**
 - (1) 資本効率性を追求し、保有前提のビジネスモデルからキャピタルリサイクル*と両輪で成長させるビジネスモデルへ転換
 - (2) 東京ガーデンテラス紀尾井町をはじめとして聖域なき流動化を実施するとともに、キャピタルリサイクル実施により、事業ポートフォリオの最適化を実現
 - ① 流動化による含み益の顕在化（西武グループが保有するすべての物件が検討対象）
 - ② 流動化により得られた資金を再投資に振り向け、**不動産価値を最大化（NAV成長）**
 - 重点エリアを明確にするとともに、外部協業パートナーとの連携およびエグゼクティブアドバイザーの招聘
 - 都心エリア（高輪・品川・芝公園）の再開発
 - 西武鉄道沿線（西武新宿・高田馬場）の再開発
 - リゾート開発（軽井沢・箱根・富良野・日光等）の本格化
 - 物件の新規取得
 - ③ 資本効率性の判断材料として、**西武ROICを導入**
 - ④ **キャピタルリサイクルを回すためのアセットマネジメント機能を整備**
 - ※ 流動化とその資金を活用した再投資を持続的におこなうことで成長していくビジネスモデル
- 02 インバウンド需要の取り込み、値上げの継続、国内外250ホテル体制の構築（MC拡大）によるホテル・レジャー事業の収益性向上**
- 03 企業価値向上につながる成長投資を優先しつつ、株主還元の安定性および継続的な強化を図る**
 - ① 配当方針：2025年3月期の配当予想を**1株当たり配当金30円**とし、今回計画以降、**DOE2.0%を下限とする累進配当を導入**することで、**安定的な配当とあわせ、収益向上を通じた増配を実現**
 - ② 自己株式取得：バランスシートの状況を踏まえ、機動的に実施
- 04 新たな長期戦略・中期経営計画を実行するための基盤となるコーポレート・ガバナンスを強化**

価値創造ストーリー

アウトプット（財務KPI）

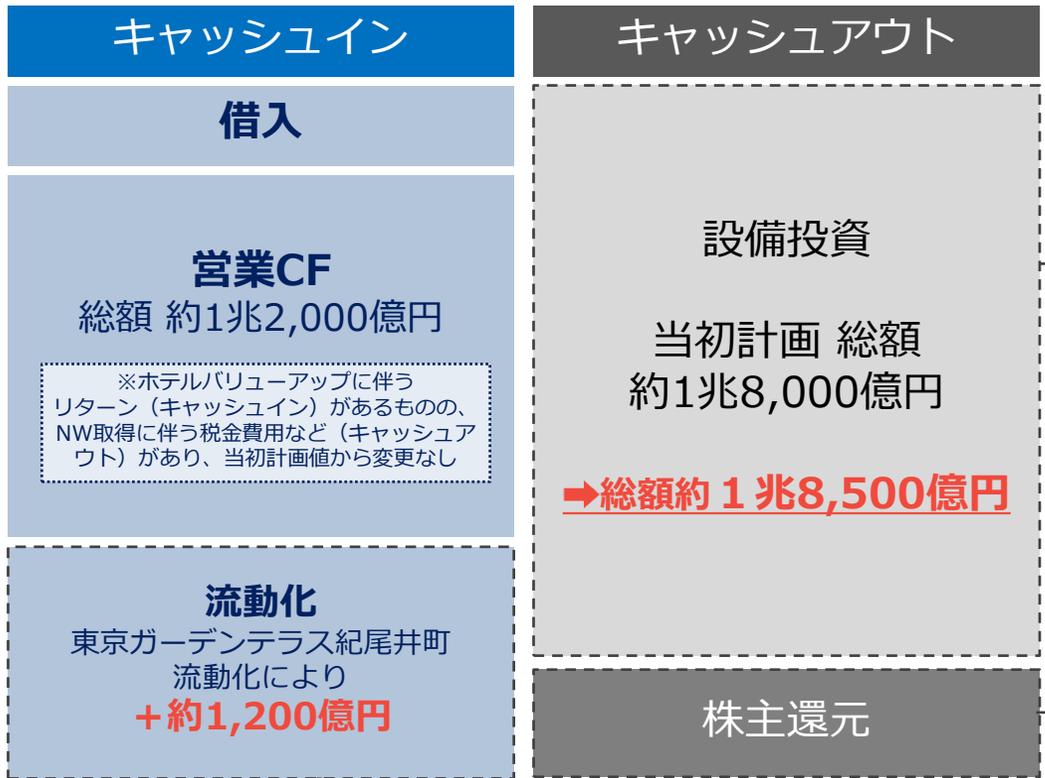


- 250ホテル体制を構築し、収益性を高めていくとともに、不動産回転型ビジネスによる持続的なキャピタルリサイクルを実現し、下記のとおり、資本効率や最適資本構成を再設定。
- まずは恒常的にROE 8%を達成し、2035年度に10%以上を目指していく。



2024~2035年度までのキャッシュアロケーション(更新)

- **成長投資を優先しつつ、株主還元も拡充。**
- **長期戦略で計画している投資に加え、同戦略を深化（ホテル・レジャー事業のさらなるインバウンド需要の取り込みおよび値上げの継続）すべく、ブランド価値、収益力向上のための**主要ホテル（品川等）のバリューアップ投資**を実施（投資規律を遵守）。**
 - ・成長の源泉となる人財への投資（西武グループ長期戦略2035達成に向けた業界最高の処遇実現やサービスレベル向上に資する異次元の教育投資など）も加速。引き続き森林保全をはじめとした自然資本、その他社会・関係資本への取り組みも継続。
- **資本効率性の向上（BSコントロール、ROE・EPS向上）、および長期戦略の効果発現により将来のNAVを上昇させていくという考えのもと、**自己株式の取得**を実施。また、株主へ長期継続的に還元するという考えのもと**増配**も実施。**



※赤字が2024年5月9日の開示からの変更点

- 都心再開発（高輪、芝公園、西武新宿、高田馬場）約6,000億円 不動産事業
 - リゾート開発 約700億円
 - 新規物件の取得/出資、早期の体制強化・事業規模拡大による企業価値向上を企図したM&A 約2,400億円
 - ホテル改装、海外ホテルのM&A 約3,000億円 ホテル・レジャー事業
 - **ブランド価値、収益力向上のための主要ホテル（品川等）のバリューアップ 約500億円（詳細はp.8参照）**
 - 都市交通・沿線事業の安全維持投資やデジタル化等にもなう投資 約4,500億円 都市交通・沿線事業
 - 働きやすい職場環境への投資（西武鉄道の現業寢室個室化100%やプリンスホテルの寮改修）など
-
- **自己株式の取得**
 - ・ バランスシートと今後の成長投資の状況を踏まえ機動的に実施
 - ・ **資本効率性の向上及び資本コストの低減を企図し、2024年12月より700億円実施**
 - **配当総額1,300億円以上（配当40円/年以上）（5/9開示比+300億円）**
 - ・ DOE2.0%を下限とする累進配当を導入することで、安定的な配当とあわせ、今後のキャピタルリサイクルによる収益向上を通じた増配を実現
 - ・ **株主へ長期継続的に還元することを意識し、2025年3月期の配当予想の1株当たり配当金を40円に増配（累進配当も継続）**
-
- 流動化で資金使途（計画）を上回る場合は、返済や自己株式の取得などを機動的に実施

東京ガーデンテラス紀尾井町流動化による資金使途（短期間における全体感）

- 東京ガーデンテラス紀尾井町の流動化によるキャッシュイン約3,200億円（税金などのキャッシュアウトを加味）は、西武グループ長期戦略2035で定めた最適資本構成の考え方にに基づき、**足元の成長投資やハードルートを上回る追加成長投資に充当**（一部は一時的に返済し、都心・リゾートの再開発に向けてデットキャパシティを創出）。
- そのほか成長の源泉となる人財への投資（西武グループ長期戦略2035達成に向けた業界最高の処遇実現やサービスレベル向上に資する異次元の教育投資など）を実行し、利益成長を図る。
- また、資本効率性の向上（BSコントロール、ROE・EPS向上）や株主へ長期継続的に還元することを企図し、**自己株式取得700億円かつ1株当たり配当金40円/年の配当（25/3期予想の30円/年から増配）を実施。**

ポイント

成長投資

約**1,300億円**

既存成長投資 約**800億円**

追加成長投資 約**500億円**

BS強化・財務体質強化

一時的な返済 約**1,200億円**

株主還元

自己株式取得 **700億円**

配当 **40円/年以上**

（25/3期予想の30円/年から増配）

【既存成長投資】

- 物件取得/出資：約500億円
- 大規模再開発（高輪等）：約200億円
- リゾートエリアへの投資：約100億円
- 働きやすい職場環境への投資（西武鉄道の現業寢室個室化100%やプリンスホテルの寮改修） など

【追加成長投資】

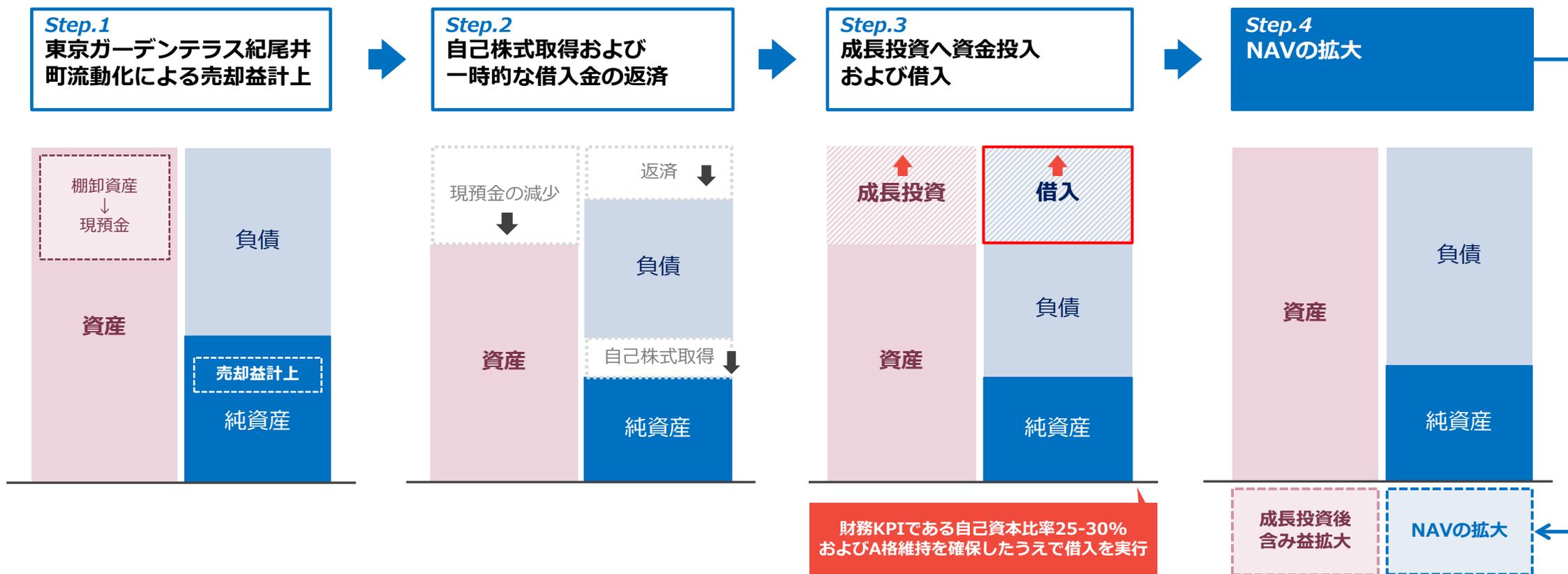
- ブランド価値、収益力向上のための主要ホテル（品川等）バリューアップ 約500億円（詳細はp.8参照）
- 埼玉西武ライオンズ強化のための環境改善（観客動員数の増加にともなう売上増）

- 将来の大規模再開発（高輪・芝公園エリアなど）に向けてデットキャパシティの創出
 - 創出したデットキャパシティについては、長期戦略の成長投資で順次活用
- ※期限の到来する借入金の返済を予定

- 資本効率性を向上させるとともに、資本コストを考慮した自己株式取得
- 株主へ長期継続的に還元することを企図し、DOE2%基準を上回る増配の実施（累進配当も継続）

資金使途によるBSの変化イメージ

- 東京ガーデンテラス紀尾井町の流動化により現預金および自己資本が増加するため、資本効率性の向上（BSコントロール、ROE・EPS向上）という考えのもと、自己株式取得により株主への還元を実施。
- 成長投資を実行するまでにタイムラグがあることから、一時的に借入金を返済することでデットキャパシティを確保。
- 成長投資のタイミングに合わせ、最適資本構成を踏まえたくうえで適宜デットを活用し、成長投資をおこなうことで利益成長とともに、それに伴うNAVの拡大を目指す。



成長投資 プリンسホテルブランドにおけるこれまでのアクションと今後

これまで

プリンスホテルブランド成長に向け、まずは優先して **マスターブランドの認知とプレファランス向上** を実行

2023

TVCM「絶景はプリンスにある。」により、
マスターブランドとしての認知度を向上

2024.4

マーケティングブランド、会員プログラム、宿泊予約システム統合
グローバルグループWebサイト、Seibu Prince Global Rewardsアプリ運用開始

ブランド統合

3 brands
and systems into

1 global
hotel brand



プリンスホテルブランドにおけるこれまでのアクションと今後

- 長期戦略においては、インバウンド需要の取り込み、値上げの継続等によりホテル・レジャー事業の収益性向上を図ることとしている。
- ザ・プリンス パークタワー東京をはじめとした26事業所の流動化におけるGICとの協業に加え、東京ガーデンテラス紀尾井町の流動化（MC化）によるブラックストーンとの協業等により、西武・プリンスホテルズワールドワイドのオペレーターとしての質をさらに向上させ、ホテル業のADR、GOPマージン向上を実現させることで、当社グループ全体のNAV成長とさらなるMC契約獲得を目指す。
- 合わせて高輪においては再開発をおこない、一方、サブブランドのリニューアルとともにプリンスホテルの中核を担う品川等、既存事業所のバリューアップをおこなうことにより収益性を向上させていく。

今後

「日本をオリジンとしたグローバルホテルチェーン」となるべく、ブランドの価値向上のため、サブブランドのリニューアルを実行していく
その展開先（ショーケース）として、品川プリンスホテルを改装し、リポジショニングを実現

■ サブブランドのリニューアル

ブランドの価値向上、スタンダード確立
 お客さまへのわかりやすさを目的とし、リニューアルを検討



■ 品川プリンスホテルのリポジション

プリンスホテル最大の規模、お客さまの認知度の高さ、
 エリアポテンシャルもある品川プリンスホテルを
新たなブランド体系に合わせ、バリューアップ



自己株式取得および増配

- 企業価値向上につながる成長投資を優先しつつ、株主還元の安定性および継続的な強化を図る。
- 今回、東京ガーデンテラス紀尾井町の流動化により、計画を上回って得た資金の一部を活用し、自己株式取得および増配を実施。

※赤字が2024年5月9日の開示からの変更点

自己株式取得

- バランスシートの状況を踏まえ機動的に実施

▶ 今回、2024年12月より700億円の自己株式取得を実施

実施方法：取引一任勘定取引契約に基づく市場買付け

(当社保有自己株式を除く発行済株式総数に対する割合 8.66%)

(連結において保有する自己株式を除く発行済株式総数に対する割合 10.17%)

本件により取得する自己株式については、会社法第178条の規定に基づく取締役会決議により、全て消却する予定

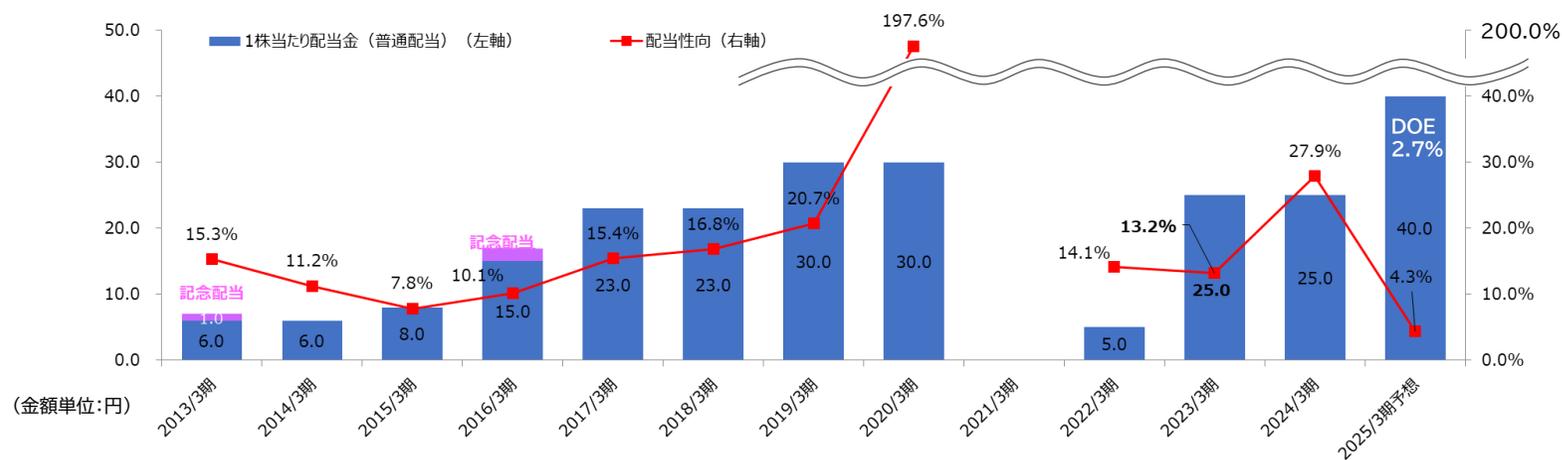
配当

累進配当※



DOE2%を下限※

- DOE2.0%を下限とする累進配当を導入することで、安定的な配当とあわせ、収益向上を通じた増配を実現 ※業績に多大なマイナス影響を与える事態が発生した場合を除く
- 株主へ長期継続的に還元することを意識し、**2025年3月期の配当予想を1株当たり配当金40円/年に増配（累進配当も継続）**
(増配を実施しなかった場合、2025年3月期DOE2%水準の30円程度となる見込み)



サステナビリティアクションへの取り組み

- 当社グループでは、社会課題や当社の事業環境を踏まえて、特に取り組むべき6つのマテリアリティ（重要テーマ）を設定し、持続可能な社会の実現に向け「サステナビリティアクション」を進めている。
- **当社グループの強みである“自然資本”や“社会・関係資本”の価値を更に高め、**当社グループを支えていただく様々なステークホルダーの方々へ貢献すべく、各種取り組みを進める。

「脱炭素・資源有効活用」に向けた取り組み

“2030年までに社有地全体の30%(2,700㎡)を環境保全推進地区化する”という非財務KPIのもと、今年度より全国18地区を「西武の森」とする森林保全プロジェクトを本格開始。

具体的には、健全な森林の育成に向けた人工林伐採による森林更新や、里道復活に向けた遊歩道整備等が挙げられ、森林整備のみならず景観再生にも積極的に取り組んでいる。



地域・社会との共存

各種自治体との連携協定やタウンマネジメントの実施に加え、鉄道高架下に地域との交流やイベントが行える広場をつくること等を通して地域の魅力発信と活性化に取り組んでいる。



所沢市、西武HD、西武鉄道、西武リアルティソリューションズによる「所沢市内のマチづくりに関する包括連携協定」の締結の様子



所沢タウンマネジメント
地域の魅力の発見・発信や、地域連携のイベントの開催等を通して、所沢の価値向上と活性化を目指す取り組み

<本資料の取り扱いについて>

本資料に記載されている当社グループの業績予想、目標、計画、予想その他の将来情報については、本資料の発表日時点において入手可能な情報に基づき作成した当該時点における当社の判断又は考えに過ぎず、実際の当社グループの業績、財政状態その他の結果は、国内外の政治、経済、金融情勢の変動や、今回公表計画において意図する施策の状況その他の本資料の作成時点で不確実な要素等により、本資料の内容又は本資料から推測される内容と大きく異なる場合があります。